

平成22年 4月 13日現在

研究種目：特定領域研究  
研究期間：2007～2012  
課題番号：19046002  
研究課題名（和文） 社会関係資本の機能と創出

研究課題名（英文） Role of Social Capital and its Construction

#### 研究代表者

清水 和巳 (SHIMIZU KAZUMI)  
早稲田大学・政治経済学術院・准教授  
研究者番号：20308133

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・理論経済学(3601)、心理学・社会心理学(3901)

キーワード：社会関係資本、メカニズム・デザイン、環境、公共財供給、実験

#### 1. 研究計画の概要

Robert. Putnam(1993, 2000)によると、社会関係資本 Social Capital は「社会的ネットワーク、およびそこから生じる互酬性、信頼性の規範」であり、それは社会的ジレンマにおける協調行動を促し、社会全体の効率性を改善するとされる。本研究の目的は、実験手法を用いて、適切な社会関係資本の尺度を構築し、社会関係資本が全体として効率性を増加させるかどうかを検証することにある。また社会的ジレンマ解決に対して社会関係資本が与え得る可能性を実験によって探る。

#### 2. 研究の進捗状況

19年度には、社会関係資本に関するワークショップを開催し、この知識を基礎に、20年度にかけて、社会関係資本と環境意識に関する調査と実験、公共財供給における社会関係資本の形成に関する実験、社会関係資本の集団拘束性に関する実験、規範的感情と社会関係資本形成に関する実験を開始した。21年度には、これらの実験研究を、国際比較、ニューロサイエンスを視野に入れて推進し、新たに社会関係資本とメカニズム・デザインに関する実験を行った。

これらの実験研究の進捗状況は以下の通りである。 に関しては、ラボ・フィールド実験を日中において実施し、社会関係資本を測る信頼行為は、協調行動の有無、リスクや公平に対する選好、他人への期待等に影響され、また被験者の年齢と強い負の相関があることが判った。 に関しては、公共財に関する情報が人々の協力行動に与える影響を Web

実験によって検討した。その結果、人々は公共財の効果を明記した情報を受け取った場合、他者も自分と情報を共有しているという「幻想」をもち、公共財を供給することが判った。 に関しては、社会関係資本として「分業」を想定し、ラボ実験を日本でを行った。結果として、「分業」で貢献できなかった人は、自分より「分業」の成績が良かった人に対して、PDで協力することが判った。 に関しては、他者の信頼性判断に重要となる心理的・制度的要件を特定するための行動実験、他者信頼時の神経生理学的基盤とその個人差についての脳イメージング、行動実験を行った。

に関しては、メカニズム・デザインの参加問題を吟味し、社会構成員全員が参加する制度設計の不可能性が理論的に示された。実験においては、公共財の供給費用だけでなくその質も考慮した公共入札モデルの検証を行った。理論の予測通り、「手抜き」防止ルールがないと、倒産しそうな企業が低い額で入札し、工事を落札し、手抜き工事をすることが判った。

#### 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

[理由]「2. 研究の進捗状況」にも示したように、研究は予定通り進んでいる。得られた結果、知見も英文論文での公表、国際学会での発表を通じて世界に発信している(「5. 代表的な研究成果」を参照)。

#### 4. 今後の研究の推進方策

今後も上記5カテゴリーの実験研究を中心に研究を進めていく。

5. 代表的な研究成果  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

Shohei Takagi<sup>1</sup> and Shigehiro Serizawa, An impossibility theorem for matching problems, *Social Choice and Welfare*, online first, 13 January 2010. (査読有)

小宮あすか・渡部 幹・楠見 孝 (2010) 後悔の社会的適応メカニズム：对人的状況における後悔 心理学評論 53 (印刷中) (査読有)。

Kentaro Hatsumi and Shigehiro Serizawa, Coalitionally strategy-proof rules in allotment economies with homogeneous indivisible goods *Social Choice and Welfare*, Volume 33, Number 3 423-447, September 2009. (査読有)

Tatsuyoshi Saijo and Takehiko Yamato, "Fundamental Impossibility Theorems on Voluntary Participation in the Provision of Non-Excludable Public Goods," *Review of Economic Design*, 2009, forthcoming. (査読有)。

Rigdon, M., Ishii, K., Watabe, M., & Kitayama, S. (2009) Minimal Social Cues in the Dictator Game. *Journal of Economic Psychology* 30 358-367. (査読有)。

Shen J. and \*Saijo, T. (2008) "Reexamining the Relations between Socio-demographic Characteristics and Individual Environmental Concern: Evidence from Shanghai Data." *Journal of Environmental Psychology*, 28, 42-50. (査読有)。

[学会発表](計6件)

Shigehiro Serizawa (2010), Auctions for

Public Construction with Corner cutting, presented at Asia Pacific Meeting of the ESA, University of Melbourne, 20th February.

Watabe, M. (2009) Judgment on Others' Trustworthiness: an fMRI Study. Paper presented at the Annual Meeting of American Sociological Association, San Francisco 11<sup>th</sup> August.

Komiya, Asuka, Watabe, Motoki, Miyamaoto, Yuri, and Kusumi, Takashi (2009) Regret in Interpersonal and Self Contexts US-Japan comparison. Society for Judgment and Decision Making. Boston, Nov22 poster

Qin, X., Shen, J. and Meng, X. (2009) Group-based Trust, Trustworthiness and Voluntary Cooperation – Evidence from Experimental and Survey Data in China. Paper Presented at the Annual Meeting of Chinese Experimental Economics, Shanghai, 11<sup>th</sup> August.

Shimizu, K., Fukumoto, K., Watabe, M., & Morimoto, Y. (2008), *Easy Issue for Me, Hard Issue for Them: Field Experiment in Large Social Survey*. Paper Presented at the Annual Meeting of American Political Science Association, Boston, 28<sup>th</sup> August.

Shimizu, K., Udagawa, D., (2008), *Size effects in the Life-Death Decision Hypothesis*, Paper presented at the Annual Meeting of Human Behavior and Evolution Society, Kyoto, 6<sup>th</sup> June.

[図書](計1件)

清水和巳「合理性」「実験経済学」「満足化原理」海保博之・松原望監修・北村英哉・竹村和久・住吉チカ編『感情と思考の科学事典』朝倉書店、2010 (印刷中)。